

「分析化学」誌とともに



金 澤 秀 子

伝統ある分析化学誌の編集委員長を拝命して、早いもので1年が経ちました。今年の表紙は皆様に少しでもお手にとって頂けるように目立つ色にしましたので、ぜひご覧ください。最近では、論文を紙媒体でなく電子ジャーナルで読む方も増えていると思います。現在分析化学誌は65巻を発刊中ですが、J-stageで全文公開し、オープンジャーナルとしています。その甲斐もあって、分析化学誌は、日本の和文誌の中でもインパクトファクターが付いている数少ない論文誌です。近年、大学などでプロモーションの際に研究業績や外部資金獲得数が問われ、英語論文がないと研究業績にカウントしないところもあり、和文誌への投稿数が減っております。しかし、分析化学誌は、インパクトファクターもついており、査読もきちんと行っておりますので、専門分野における研究業績として誇って頂いて良いと思います。学生や若い研究者でも十分に理解できる母国語で専門分野の論文を読むことのできる和文誌は、日本の分析化学の裾野を広げるという意味においても学会の中で大きな役割を担っていると自負しております。特に分析化学誌では、毎年「若手研究者の初論文特集」という特集号を発行しています。これから研究者になろうとしている若い方々には、ご自分の研究成果を書きなれた日本語で投稿できるよい機会となります。査読も丁寧に行います。優れた初論文の筆頭著者に対し、“「分析化学」若手初論文賞”を贈呈しています。研究成果を社会に公表するという研究者の責務を果たして頂くためにもぜひ活用して頂きたいと思っています。そのほかにも、今年は、2・3号に溶液界面研究懇談会特集、6号に「食品機能の評価と分析化学」の特集があり、今年の年間特集のテーマは「超」です。お陰様で大変興味深い論文が集まっています。この機会に会員の皆さまには奮って論文を投稿して頂きますよう
よろ
宜しくお願いいたします。

委員長をお引き受けした際には、ベテランの理事がいるからということで安心しておりましたが、いざ新しい委員会のメンバーと顔合わせをしてみると、理事の梅村先生も新任ということで、当初は編集をどのように進めてよいのか戸惑うことばかりでしたが、才幹ある理事と前委員会から継続している編集委員の先生方の強力なサポートがあり、多くの編集委員のご協力のもと、分析化学誌担当の事務局の方にも助けられて、現在までなんとか毎月雑誌を発行することができております。

学会の活性化のため編集経費も見直そうということで、これまで版組を印刷業者に依頼していましたが、著者にテンプレートを使用して投稿して頂くようお願いしております。もちろん、テンプレートが面倒という方には、有料となりますが、学会でテンプレートへの入力もお引き受けしていますので、お気軽にご相談ください。分析化学誌への会員の皆様のご投稿をお待ちしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。(2月27日 記)

[Hideko KANAZAWA, 慶應義塾大学薬学部, 「分析化学」編集委員長]